

天声人語

椿樹と真知子のすれちがいを描いて敗戦後の日本をわかつたNHKラジオ劇「君の名は」。題名の由来には諸説ある。一説には、当時放送界を統制していた占領軍幹部の早とちりという「次作の題名を」。内容も決まっていない段階で一方的に迫る幹部に、NHKの折衝役がなぜか「君の名は」とつぶやく。幹部は作品名と思い込み「いい題名だ」と即決する。後に聞かされた脚本家菊田一夫も半ばあきれる決まり方だったらしい（「悲劇喜劇」1980年3月号）▼新作アニメ「君の名は。」を映画館で見た。主人公は三葉という女子高校生と男子高校生の瀧。互いの心が入れ替わるうち、思いを寄せ合う▼新海誠監督の頭には当初「夢と知りせば」という題があつた。夢と現実の織りなす物語だから、夢を詠んだ和歌から引いた。（思ひつつ寝たから、夢に出てきたのか。夢と知つていたら目を覚まさなかつたのに▼古今和歌集にある小野小町の名歌である。検討の末「君の名は。」に落ち着いたもの、やはり先行の「君の名は」が有名ゆえためらいもあつたそうだ▼「君の名は真知子と答え歳がバレ」と先日の朝日川柳にある。筆者もショール姿の真知子がすぐ浮かぶ世代だ。いま劇場に駆け込む10代、20代はまず真知子を知るまい。数十年後もきっと、「瀧くん」と呼びかける三葉の声を思い浮かべるのだろう。君の名や昭和は遠くなりにけり。

2016・10・6